

1	組織名称(略称)	ITS Info-communications Forum ITS情報通信システム推進会議 (ITS Forum) <a href="http://www.itsforum.gr.jp/">http://www.itsforum.gr.jp/</a>			
2	分類	活動目的	プリ標準化	対象分野	サービス(ITS関連)
	技術MAP	活動エリア(注1)	1	活動技術(注2)	X
3	目的	<p>ITS情報通信システム推進会議は、ITS情報通信システムの早期実現を図るため、ITS情報通信システムに関する研究開発及び標準化の調査研究、関係機関との連絡調整、情報の収集、普及啓発活動等を行い、もって電波利用の健全な発展に寄与することを目的とする。</p> <p>その目的を達するために以下の事業を行う。</p> <p>(1) ITS情報通信システムに関する研究開発及び標準化の調査研究 (2) ITS情報通信システムに関する情報の収集、交換及び提供 (3) ITS情報通信システムに関する関係機関との連絡調整 (4) ITS情報通信システムに関する普及啓発 (5) その他本会の目的を達するために必要な事業</p>			
4	組織構成	<p>総会、運営委員会、企画部会、事務局という構成。</p> <p>(平成21年6月に、それまでの研究開発部会と調査部会を廃止して新たに企画部会を設置し、企画部会の配下に専門委員会・WG・TG を構成する体制で活動)企画部会</p> <p>ITS情報通信システムに関する標準化・研究開発の推進、国内外の関連機関との情報交換、標準化動向の調査および普及啓発活動を行なっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術企画委員会(基盤技術と国際標準化に関する専門委員会・WGを横断した検討)</li> <li>・高度化専門委員会(次世代ITSに有効な方式・メディアの検討、自動運転システム通信仕様の検討。配下に、次期システム企画TG、無線方式検討TG、放送システムTG、セルラー応用TGがある。)</li> <li>・国際対応専門委員会(ITS通信技術・システムに関する国際協調活動および情報収集。配下にVSC TGがある。)</li> <li>・700MHz帯ITS実用化専門委員会(700MHz帯ITS実用化に向けた運用支援、標準化推進、相互接続の検討。配下に、運用支援TG、標準化推進TG、相互接続TG、路路間通信システム検討TG、車車間通信システム推進TGがある。)</li> <li>・5GHz帯路車間通信検討WG(DSRC関連規格の維持・改訂と国際対応支援)</li> <li>・DSRCプラットフォームWG(狭域・広域通信メディア対応DSRCプラットフォームの規格検討と関連規格の維持・改訂、普及啓発)</li> <li>・ミリ波WG(79GHz帯高分解能レーダーの国際協調対応と実用化に向けた普及啓発。ミリ波の応用に関する情報収集。)</li> <li>・広報WG(ITS情報通信システム推進会議活動の普及啓発)</li> </ul> <p>体制表: <a href="http://www.itsforum.gr.jp/Public/J1Purpose/P03/P03.html">http://www.itsforum.gr.jp/Public/J1Purpose/P03/P03.html</a></p>			
5	参加資格費	<p>一般会員: 法人又は団体 年会費 10万円</p> <p>個人会員: 学識経験者等の個人(運営委員会の承認が必要) 年会費 無料</p> <p>顧問: 会長が学識経験者等のうちから委嘱</p> <p>特別会員: 当会の事業を行うため、会長が特に必要と認めたもの 年会費 不明</p>			
6	主要メンバー (2017年10月現在)	<p>合計 99メンバー</p> <p>1999年7月に当時の関連5省庁(郵政省、警察庁、通商産業省、運輸省、建設省)と主な電気通信事業者、自動車メーカ、機器メーカが集まって発足しており、ボードメン</p>			

	(注3)	<p>パの記述は公開されている情報には含まれない。</p> <p>一般会員： 73  個人会員： 6  顧問： 1  特別会員： 19  1社(イスラエル)を除いて、全て日本のメンバ</p> <p><a href="http://www.itsforum.gr.jp/Public/J4Links/index.html">http://www.itsforum.gr.jp/Public/J4Links/index.html</a></p>
7	他団体・組織との関係	<p>ITS国内外団体との情報交換・事業協力：  ・ITS America、ITS Japan など</p>
8	TTC活動との関連性	<p>■TTCの専門委員会活動と関係あり  コネクテッド・カー専門委員会  理由：自動車と通信を扱っているため  □無し</p>
9	活動状況	<p>最新のトピックス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017/10/2 「700MHz帯高度道路交通システム実験用車車間通信メッセージガイドライン 1.1版」を発行</li> <li>・2017/10/2 「700MHz帯高度道路交通システム実験用路路間通信ガイドライン 1.1版」を発行</li> <li>・2017/10/2 「700MHz帯高度道路交通システム陸上移動局の相互接続性確認試験ガイドライン 1.2版」を発行</li> <li>・2017/10/2 「700MHz帯高度道路交通システム拡張機能ガイドライン 1.1版」を発行</li> <li>・2017/9/19 「ITSアプリケーションサブレイヤ仕様ガイドライン 1.0版(英語版)」を発行</li> <li>・2017/7/26 第36回企画部会を開催  専門委員会・WGの活動概要報告(活動経過、今後の取り組み等)および2017年度VSCセミナー(12/14)プログラム案・ITS AP Forum福岡概要の紹介等その他の議題について報告と、これを受けた意見交換を実施。</li> <li>・2017/6/22 「5.8GHz帯を用いた車車間通信システムの実験用ガイドライン 3.0版」を発行</li> <li>・2017/6/20 2017年度総会を開催  2016年度の事業報告及び収支決算、2017年度の事業計画及び収支予算、並びに2017年度の役員および運営委員の選任について審議が行われ、いずれも提案どおり議決。</li> <li>・2017/5/25 「ITSアプリケーションサブレイヤ仕様ガイドライン 1.0版」を発行</li> <li>・2017/4/18 第35回企画部会を開催  第20回運営委員会(案)・2017年度総会(案)およびその他の議題について報告と、これを受けた意見交換を実施。</li> <li>・2017/3/2 第34回企画部会を開催  専門委員会・WGからの2016年度活動成果/2017年度活動計画の報告と、これを受けた意見交換を実施</li> <li>・2016/12/16 2016年度VSC関連国際会議結果報告会を開催</li> <li>・2016/11/29 セルラー応用TG 2016年度講演会を開催</li> <li>・2016/10/5 「5.8GHz帯におけるRLANとDSRCの周波数共用に関する検討報告書」を公開</li> <li>・2016/9/30 「狭域通信(DSRC)基本アプリケーションインタフェース仕様 ガイドライン 1.3版」を発行</li> </ul> <p><a href="http://www.itsforum.gr.jp/index.html">http://www.itsforum.gr.jp/index.html</a></p>
10	設立時期	1999年7月

11	本部所在地	ITS情報通信システム推進会議事務局 〒100-0013東京都千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル11F 一般社団法人電波産業会内 TEL 03-5510-8662 FAX 03-3592-1103 E-mail <a href="mailto:its@arib.or.jp">its@arib.or.jp</a>
12	関連標準化技術	ITS(Intelligent Transport Systems:高度道路交通システム)に関連する、DSRC(狭域通信)、700MHz帯高度道路交通システムなどの各種ガイドラインを開発しており、以下よりダウンロード可能である。 <a href="http://www.itsforum.gr.jp/Public/guideline/index.html">http://www.itsforum.gr.jp/Public/guideline/index.html</a>
13	備考	・ 規約 <a href="http://www.itsforum.gr.jp/Public/J1Purpose/index.html">http://www.itsforum.gr.jp/Public/J1Purpose/index.html</a>  ・ ガイドラインに基づく製品の普及状況: 本フォーラムがこれまでに作成してきたガイドラインは、実験を行うために必要となる仕様やインタフェースを規定したガイドラインであり、これに基づいて製品が作られることにはならない。
14	更新年月	2017年10月

(注1)活動エリアは以下から最も適当な項目を選択し、その番号を記入のこと。

- 2: モバイル系領域を中心に活動を実施
- 1: モバイル系領域の活動を主に、固定系領域の活動も実施
- 0: モバイル系、固定系の両領域にまだがって活動実施
- 1: 固定系領域の活動を主に、モバイル領域の活動も実施
- 2: 固定系領域を中心に活動を実施

(注2)活動技術は以下から最も適当な項目を選択し、その番号を記入のこと。

- 3: APL(アプリケーション)領域の活動を実施
- 2: APL領域の活動を主に、MDL(ミドルウェア)領域の活動も実施
- 1: APLとMDLの両領域の活動を実施
- 0: MDL領域の活動を実施
- 1: NW(ネットワーク)領域の活動を主に、MDL領域の活動も実施
- 2: NW領域の活動を実施
- x: 該当せず等

(注3)日系企業とは親会社が日本企業かどうかで判断する。

(注4)「TTC活動との関連性」とはTTCの専門委員会やアドバイザリーグループの活動と関連しているかを示す記載とし、理由には具体的な専門委員会名、アドバイザリーグループ名と関連している部分等を記載する。